



← 歩兵第二聯連隊の練兵場跡に建立された「水戸歩兵部隊の跡」の碑(水戸市堀原)



→ 昭和4年11月20日堀原練兵場における茨城・栃木・群馬諸団休御親閲の状況(昭和四年陸軍特別大演習記念アルバムより転載)

陸軍特別大演習と土浦中学生 4

1929(昭和4)年11月20日、朝来の雨はからりと晴れて、陽光麗かに照り輝く中、土浦中学4・5年生は磨きに磨いた銃剣を肩にし、母校の歴史を語る校旗を先頭に、肅然として式場なる堀原練兵場に整列し、3県下4万に余る若人は感激の時を迎えようとしていました。文中の【 】内は筆者による注記です。

昭和天皇行幸日程3(11月20日～21日)

宮内大臣一木喜徳郎が枢密院議長倉富勇三郎に宛てた文書(宮発第653号)十一月二十日

午前八時 行在所【霞ヶ浦海軍航空隊】御出門

同 八時十分 土浦驛御發車  
同 九時十分 水戸驛御着車

水戸地方裁判所、水戸地方専賣局、大日本武徳會茨城支部武徳殿、弘道館、御親閲場(堀原練兵場)行在所【茨城県庁】

十一月二十一日

別格官幣大社常磐神社、常磐公園(消防組御親閲)

好文亭、水戸高等学校【男子中等学校生徒合同体操を天覧】、

茨城縣女子師範學校【女子中等学校生徒マステームを天覧】へ行幸

午後零時五十分 行在所御出門

同 一時 水戸驛御發車  
同 三時二十分 上野驛御着車  
還幸

御親閲の壮観(11月20日)

11月20日午後2時、いよいよ御親閲が始まり、4万の若者が御親閲の榮に浴しました。5年生岡野富士雄(中29回)はその感激を「進修第31号」(1930・昭和5年3月1日発行)に「御親閲の壮観」と題して、次のように綴っています。

「昭和四年十一月二十日。この日は茨城、栃木、群馬三縣下四萬の若人が堀原練兵場に於て御親閲の光榮に輝いた日である。此の朝風冷たく雨さへ加はり、寒氣ひしひしと我等に迫るも、若人の意氣は益々揚り、血しほは彌【い】まして高鳴つた。正午頃には全部【所】定の位置に集合ををはり言ひ知れぬ緊張と興奮との裡に時は經【過】ぎた。

奮との裡に時は經【過】ぎた。

午後二時。突如唳唳【りりりう】たる『氣を付け』のラツパが鳴り渡り、續いて軍樂隊の壯重なる君が代の吹奏が始まつた。やがて御車は要路の大官、陸軍の將星を始め、四萬の若人の奉迎裡に玉座の下に靜かに止つた。再び奏せらるゝ、君が代、全員最敬禮の裡に、大元帥陛下には高さ八尺の高御臺の上に不動の御姿勢を以て御立ち遊ばされた。

十四日以来或は大演習御統監に、或は地方行幸に、或は觀兵式にと一週間にわたらせらる御多忙にもか、はらせられず玉体には少しの御疲勞の色だに召され給はず、寒風の中に輝く颯爽たる御英姿を拜したとき私の胸は感激で閉された。

やがて【牛島茨城県】知事の上奏が終り、勇壯なる軍樂隊のマーチが吹奏せられ、【各大隊長の『捧げ銃』、『前へ』の号令で】壯觀極まれる大分裂【分列】行進は開始された。四萬の大部隊の最先頭にある我等は勇躍高踏力強き歩調で、陛下の御前に咫尺【せき距離が非常に近いこと】し奉る。『頭右【かしらぎ】』の號令の下に若人の感激に満ちた顔は一齊に龍顔に對し奉り向けられた。誠心誠意を以て目禮を爲し奉りつつ前進する我等を見そなはせらるるを拜した時私の心

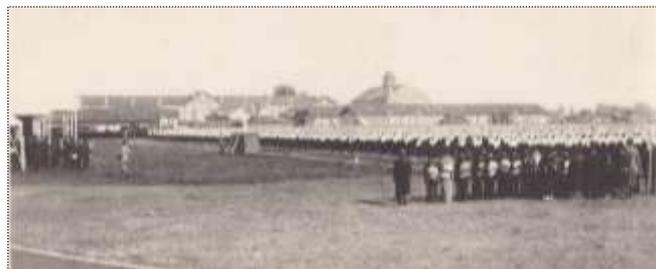
中には、光榮感激有難さの外に何物もなかつた。次の瞬間陛下にはいと嚴かに、御擧手の禮を遊ばされた。實に我等は最初の禮を賜はつたのである。此の時吾が感激は絶頂に達し眼は感激の涙に曇り、吾靈肉悉くこれ敬虔の念に包まれた。かくして萬乗の至尊の御面前を過ぎ大迂回をして停止の位置へと向つた。見

渡せば長蛇の如き若人の隊は隊伍堂々として軍樂隊の曲につれ、力ある歩調を以て陛下の御前を進みつつある。一部隊が至尊の御前に近づくや、彼等の名譽ある校旗團旗は一齊に高く直立し筑波風にはたはたと靡く。恭しく陛下を仰ぎ奉れば端然として若人に臨み給ひ、各部隊毎に畏くも御擧手の禮を賜ふのである。彼等の感激や如何に大なるもので。

黒服の健氣なる學生團、カーキ色服の頼もしき青年隊！これ等すべて希望に満ち若き昭和の第二の國民！が力強く大地を踏みしめ、第二の健全なる國民を以て自ら任ずる強き意氣と、優秀なる訓練の程を、至尊の勸覽に入れ奉り、勸慮を安んじ奉る。お、何といふ壯嚴な光景であらう。陛下の聖慮は若人の胸に強く感ぜられ、若人の意氣と忠誠とは大御心に深く通ずることであらう。『君臣一体』『義は君臣にして情は父子』。この美はしき、大和島根之國特有の精華の今更ながら我心に強く映ずるを覺えた。

時を經過すること四十分内外にして、蜿々たる大部隊の御親閲は無事に終了した。

再び知事の上奏があり、【8千の】女子奉唱團は三方から靜々と御前に進んだ。やがて軍樂隊の音頭で奉唱は始められた。『菊の香高き東野に假の御戰統べ給ふ……』彼【女】等の聲は高く強く澄み、大空にひびき渡り我等の心をひしひしと撃つ。何といふ感激に満ちた力ある聲であらう。彼【女】等が唱し終るや、再び壯重なる君が代が軍樂隊によつて奏せられ、それに合せて、我等は力の限り、聲の出る限り、大空にひびけとばかり奉唱した。陛下の御前で君が代を高



昭和三十二年十一月二十一日水戸高等学校において天覧を賜りたる男子中等学校生と昭和四年陸軍特別大演習記念アルバムより転載

らかに奉唱し得る光榮は、これが最初であり而して或は最後であるかも知れぬ。何といふ光榮であらう。

次に知事の發聲で『天皇陛下萬歳』を三唱した。全員若人の感激の情はこの萬歳の三唱に依つて奔流の如くほとぼしり出でた。かくてこの光榮に満ちた壯嚴な式ははつた。再び全員最敬禮、君が代の吹奏裡に、大元帥陛下には、高御臺を下らせられ、御車に召されて還御遊ばされた。

我等が永久に忘れ得ぬ光榮感激を心に刻して解散したのは三時半近くであった。

私は、この大事を無事過し得たのを無上の喜びとし、同時に、自己の自分を盡し、刻苦勉勵以て聖慮の萬分の一に副ひ奉らんことを自己の心に誓った。「御親閲を受けた4・5年生は、当日も野営をして、翌日帰校しました。」

### 土浦驛での奉送(11月21日)

行幸の日程を全て終えられた昭和天皇は、11月21日午後1時水戸駅発の御召し列車で還幸されましたが、土浦中学生たちは土浦駅でお見送りをしていま

す。その様子を3年生の釜田藤男(中31回)は『進修第31号・陛下を御見送り奉る』で次のように記しています。

「陛下には此の御繁忙な八日間を御滞りなく終へさせられ天機麗しく還幸遊ばされました。

塵一つだにない土浦驛構内は唯清淨といふだけです。

小砂利をふんで我等はプラツトホームに整列し、御召列車を待ち申しました。時は刻々にたつてゆきます。

『氣を付けつ。』の號令は電流の傳はるやうに順次に起こつて、ざはめきはびたりと靜り、後は唯肅然として、聲一つたてる者もありません。かすかに音響が傳はつて來ました。刻一刻響は近づき、それと共に、五体が固く固くひきしまり胸の高鳴つてくるのを覺えました。突然靜けさを破つて、『脱帽』續いて『禮』。我等は唯このまゝ、深い沼へでも落ち込んでしまふやうな氣持ちで敬禮をしました。その時御召列車は靜かに、**「さぶる様に走り込みました。この時呼吸が困難な程引きしまつてしまひました。皆の目が一齊に注がれました。」**

天皇陛下には陸軍常禮服を御つけになり、御機嫌麗しく我等に御會釋を賜りました。我等の感激は極度に達しました。我等の歡喜は五体にみなぎり唯我を忘れてしまひました。心の中にてひたすら一路御安泰に還幸遊ばすやうと祈りながらも夢心地にて遠ざかりゆく響に耳をかたむけました。

まだ誰も動いた者もありません。皆の心は御召列車の御後をどこまでもお慕ひ申してお送り申しました。

『着帽』『休め』我等は半ば夢からさ

めたごとく、千貫の重荷を下した時のやうにほつとしました。誰しも感激の色に輝いてゐました。」

かくして陸軍特別大演習は終わりました。11月14日から21日までの8日間は、先生、生徒ともに緊張の毎日であつたと思われまゝ。土浦中学生のみならず茨城県民の全てが、無上の感激と歡喜とに浸つた1週間余であつたのです。

### 堀原練兵場

堀原練兵場と水戸歩兵第二聯隊については、茨城大学ホームページ掲載の「茨城大学学報第277号(平成20年2月)平成20年3月」に茨城大学名誉教授朝野洋一先生による概説が掲載されていますので、その一部をそのまま紹介いたします。

「茨城大学とその周辺一帯は、1909年から第二次世界大戦終結の1945年まで、旧日本国陸軍の水戸衛戍地と呼ばれる軍用地で、歩兵營・衛戍病院、工兵營、練兵場、射撃場、軍人墓地などがありました。水戸衛戍地は、茨城県や水戸市が各方面から寄付を募り官民挙げての誘致運動により実現したもので、水戸市郊外の東茨城郡常磐村・渡里村にまたがる山林原野・耕地・宅地など20万坪に及ぶ土地が転用されました。当時のわが国では、各地で同様の誘致運動が展開されており、軍隊の駐屯による社会的・経済的効果に寄せる地元への期待は極めて大きなものでした。」

戦後、国有地であつた旧軍用地は、その経過はさまざまですが、主として公共用地に転用されました。歩兵營跡は茨城大学の敷地となり、東原の旧制水戸高等

学校や水戸城内の茨城師範学校などを統合した文理学部・教育学部・大学本部が置かれ、工兵營跡には附属中学が入りました。東原の教職員宿舍、三の丸の附属小学校はこの名残です。現在の野球グラウンド・テニスコート付近にあつた衛戍病院は、戦後国立病院となり1965(昭和40)年に東原の旧水戸高等学校跡地に移転しましたが、さらに2004(平成16)年に国立病院機構水戸医療センターとなり茨城町に再移転しています。練兵場跡は茨城大学の運動場として使われてい

ましたが、茨城県に移譲され県武道館・野球場・陸上競技場などのある運動公園になりました。細長い射撃場跡は少年鑑別所・水戸拘留支所・市立堀原小学校・公務員宿舍・市営住宅・県公害技術センターなどになっています。軍人墓地は水戸市堀町公園墓地に使われています。

『郷土部隊』となつた歩兵第二聯隊と工兵第十四大隊は、朝鮮の警備のほかシベリア出兵・満州事変・支那事変などに外地に派遣されましたが、1940(昭和15)年、軍備改変で満州(黒龍江省)に永久駐屯することになり水戸を去りました。これ以降終戦まで、歩兵營には総称して東部三七部隊、工兵營には総称して東部第四二部隊と呼ばれる新編成部隊・留守隊・補充隊などが置かれ、兵員の召集・入営・部隊編成・補充員の送込などを行つていました。」

なお、1940年8月から満州に駐屯していた歩兵第二聯隊は、1944年4月からパラオ諸島ペリリュー島の守備についていました。11月24日決別電報を発信して玉碎しました。

(高21回 松井泰寿)